

議事録（要旨）（案）

会 議	第2回英語交流のまちIwakuni 創生プロジェクト検討会
開 催 日 時	令和元年11月19日（火）13:30～15:00
開 催 場 所	岩国市役所 議会会議室
出 席 者	<p>【委 員】 岩野委員（座長）、大岩根委員、岡崎委員、藏重委員、ソーレンセン委員、二上委員、波田委員、浜桐委員、中邑委員 ※欠席 松重委員（代理：小谷川委員）</p> <p>【オブザーバー】 竹田委員、佐久間委員</p> <p>【岩 国 市】 教育次長、教育政策課長、文化振興課長</p> <p>【事 務 局】 英語教育推進室 熊田室長、永木次長</p> <p>【コンサル（ぎょうせい）】 峰、西澤、高橋</p>
配 布 資 料	資料1 「英語交流のまちIwakuni 基本方針（仮称）」の骨子 資料2 参考事例集 資料3 アンケート（小学生・中学生・一般市民）の調査結果【速報】 資料4 インフィード広告を利用したWEBアンケート 資料5 「英語交流のまちIwakuni 基本方針」の策定方針 ※前回資料 資料6 英語交流のまちIwakuni 創生プロジェクト検討会意見書
議 事	<p>1 開会、事務局あいさつ ・これより第2回岩国市英語交流のまちIwakuni 創生プロジェクト検討会を開会する。どうぞ宜しくお願いしたい。</p> <p>2 参加者紹介 ◆委員自己紹介 【中邑委員】（岩国幼稚園協会/認定こども園岩国中央幼稚園）前回は都合で欠席した。よろしくをお願いしたい。 【小谷川委員】（岩国市PTA連合会）松重会長の代理で出席した。保護者もしっかり勉強していなければ時代になったと感じる。</p> <p>3 議題 【岩野座長】 本日は資料説明に時間がかかるため、意見書の用紙を用意した。11/27までにFAX、あるいはEメールで提出していただきたい。それを活かして次回の第3回会議で素案を決めていきたい。 ・資料2は前回も配布したものだが、この中に事業の数値目標（KPI）の記載があるので再度配布してもらった。これは事業評価の大きな柱となるものなので、この3つの項目も視野に入れて意見をいただきたい。</p> <p>◆「英語交流のまちIwakuni基本方針（仮称）」の骨子について （コンサルによる「英語交流のまちIwakuni基本方針（仮称）骨子（第4章まで）」「アンケート（小学生・中学生・一般市民）調査結果速報」「WEBアンケート結果報告」の説明）</p>

＜委員との質疑回答＞

【岩野座長】説明があったのは資料１の骨子の初めから第４章までの内容になる。

・次いで、竹田委員から岩国基地で実施している様々なプログラムについて紹介していただく。

【竹田委員】岩国基地では様々な交流事業を展開しており、昨年は230件を実施した。内容は大きく以下のカテゴリに分けられる。

・隊員による海岸等の清掃、老人ホームでの力仕事などのボランティア。地域は角島や島根の浜田海岸など様々である。

・ボランティアの隊員と保育園の児童との英語交流。基地内の教会が主体となって毎月行っている。

・愛宕スポーツコンプレックスの整備が起爆剤となり、バレーボール、バスケットボール、サッカーなどのスポーツイベントが日米合同で行われている。12月1日（日）に開催される日米親善リレーマラソンでは、米軍基地からの出場者や給水ボランティアとしての参加も予定している。

・田植えやレンコンの収穫など、日本の文化に触れる機会として基地の関係者を招待している。また、日米協会岩国が愛宕スポーツコンプレックスで毎月料理教室を開催しており、複数月はアメリカ料理、奇数月は日本料理と一緒に作る交流をしている。

・アメリカ側の主催では、市や日米協会岩国と共同で行うハロウィンイベントなど。基地内にホーンテッドハウスを作り子ども達を招待している。

・以上のカテゴリに当てはまらないものとして、フリーマーケット、献血の協力、バスツアーの企画等もある。市民を招待して基地の運用に関する理解を深めるためのツアーも併せると年間200～250件となっている。

【文化振興課長】岩国市が取り組んでいる国際交流の主なものとしては、姉妹都市であるアメリカ合衆国ワシントン州のエベレット市に高校生を派遣する事業、岩国基地内のメリーランド大学への就学推進事業、市内約1,900人の外国人に対する生活支援、国際交流ボランティアの育成、ハロウィンイベントや日本語・英語スピーチコンテストの開催等がある。

・日本文化に触れる機会としてはカルチャーフェスティバル、田植え、稲刈り、餅つき等。新たな取り組みとして市内や基地内の子ども達によるクリスマスツリーの飾りつけも企画している。

・その他に外国人のための日本語講座、英語を使ったダンスやショーのワークショップ「ヤングアメリカンズ」の開催、オリンピック米フェンシングチームのキャンプ支援などがある。

【岩野座長】英語交流のまちIwakuniの機運を高め、市民が誇りをもちながら、英語で楽しめる事業にするにはどうすればいいのか、検討していく必要がある。

◆「英語交流のまちIwakuni 基本方針（仮称）」策定について

（コンサルによる「英語交流のまちIwakuni基本方針（仮称）骨子（第５章）」の説明）

＜委員との質疑回答＞

【岩野座長】前回の検討会で出た意見を全て入れ込んだので盛りだくさんなところはある。ご意見をいただきたい。特に、事業推進にあたり教育委員会のみならず他の部署との連携をどうするのか、「（仮称）英語交流のまち推進センタ

	<p>ー」をどういふものにしていくかの検討も必要となる。</p> <p>【中邑委員】基地内大学の就学推進と基地内ホームステイについて具体的な内容をお聞きしたい。</p> <p>【文化振興課長】基地内大学には毎年20名弱が就学している。主として基地内の共通スペースや図書館での授業となるが、内容は本国と同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位のとれる正規コースと、大学の講義に必要なレベルまで英語力を上げていくブリッジプログラムがある。 ・基地内ホームステイは、計画中の段階である。 <p>【小谷川委員】イングリッシュキャンプの参加者が少ないように思うが、どのように周知しているか。</p> <p>【英語教育推進室】1泊2日・1DAYとも定員が決まっているため、希望者は多く、高い抽選倍率になるキャンプもある。周知はチラシを作って各小中学校へ配布している。</p> <p>【浜桐委員】基地内大学は基地の隊員のためのもので、日本人も入学は許可されるが、単位の取得や卒業はかなり大変と聞いている。ただ、そこからアメリカのメリーランド大学（本校）に入学する日本人学生もいる。そういった学生がもっと増えればいいと思う。更なるPRも必要なのでは。</p> <p>【文化振興課長】基地内大学は岩国市の重要な資源ということで、数年前から、広島県呉市から周南市まで、新聞の折り込み広告で周知している。先ほどのアンケート結果にもあったように県外への周知が進んでいるのはその影響ではと思う。通学者も岩国市民は半分程度で、広島や山口市などから週2回の通学をしている学生がいる。</p> <p>【二上委員】前回もお話したが、岩国市のWEBサイトの自動翻訳には間違いが多い。外国人が岩国市を知りたいときに最初にアクセスするサイトと思うので、対応を検討してほしい。</p> <p>【浜桐委員】タイトルにもある「英語交流のまち」の定義をお聞きしたい。アメリカ人と日本人が居ればそれで交流になるのか。</p> <p>【岩野座長】定義については、この事業の決められた期間でできることとして、この検討会で検討するテーマと思う。</p> <p>【竹田委員】「英語ができる・得意」の定義は何なのか。英語が得意になる、というゴールをもっと具体的に示す必要があるのでは。外国人と問題なく英語で交流できるまちを目指すための具体的な施策や事業を明らかにして、そこまでのステップを示す。そうすれば在住を希望する人や交流に携わる人々がイメージしやすくなり、より有益になるのでは。</p> <p>【藏重委員】「岩国は、言葉を通じてもっとグレードの高いことが出来る」という可能性を示していると、私は理解している。</p> <p>【竹田委員】移住・定住のために必要な英語とはどのようなものなのか。ビジネスレベルの英語力まで目指すのか。「英語ができる」というのがどういうことなのか、自分の中でもイメージができない。プロジェクトを立ち上げるにあたり、具体的に想像できるものの方が参加しやすいと感じる。</p> <p>【中邑委員】幼稚園に基地の外国人の方が入園しており、英語のできる事務員の募集を検討した際に、英会話が出来る人は基地内の飲食店でのバイトの方が楽しいということだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食店の従業員が仕事として英会話が出来るようになるなど、英語を通じた仕事に移住・定住のきっかけにつながるとよい。 <p>【浜桐委員】子どもは学校で英語を学習する機会があるが、大人にとって英語が</p>
--	---

	<p>使える交流やまちづくりとは何か。イメージがしにくいように感じる。</p> <p>【岩野座長】 骨子26ページの緑色で囲んである「（仮称）英語交流のまち推進センター」について、仕事のマッチングを含めたアクセスしやすい場所としての活用を検討していくのはどうか。</p> <p>【岡崎委員】 岩国市内では国際交流の様々なイベントがあるが、その全ての情報を得るのは難しい状況にある。（仮称）英語交流のまち推進センターにアクセスすれば情報を総合的に得ることができるという。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での英語教育の充実というのは施策として最も分かりやすいので、小中学校だけでなく高等学校とのつながりも何か入れてほしい。アンケート調査では高校生の意見も聞きたかった。 ・あらゆる年代の外国語学習に対応できる学習センターを目指すのがよいと思う。 <p>【藏重委員】 山口大学では秋吉台アカデミックセンターなど、教育センターとしての役割を持つ施設があるとのこと。これの英語版を目指すことで学校教育や親子の学び、移住・定住の促進につながるのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩国の小中学校、高等学校でも喋れるだけでなく「書ける」「読める」ができるように教育委員会で取り組んでいければよいと思う。 <p>【岩野座長】 コンセプトとキャッチフレーズ、施策についてのご意見は。また、民間等との連携などについても意見を伺いたい。</p> <p>【二上委員】 週末に錦帯橋で観光ボランティアをしているが、外国人が多く訪れる。観光ガイドとの協働を検討するのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移住・定住モニターツアー」（いわくに暮らしサポートセンター）との連携は怎么样了のか。 <p>【波田委員】 ビジネスの構築も視野に入れていかなければいけない。子ども達が大人になった時、岩国で英語を活かして何が出来るか。商工会議所も交流を主とした事業はあるものの、英語を役立てたものはないので考えていきたい。</p> <p>【二上委員】 提案だが、英語教育に力を入れていくのであれば、英語教材も岩国に特化したものを作ってはどうか。英語による錦帯橋の説明など、岩国という地域の特性を活かしたものがあればよい。</p> <p>【ソーレンセン委員】 ここまでの話を聞いていて、少しバランスが悪いように思う。骨子案を見ると外国人に取ってのメリットは「日本語の学び」や「生活支援」ぐらいで、メリットを得る対象が日本人に偏っている。相互に学ぶ機会がもっとあれば交流も増えるし、岩国に来る人も増えるのではないか。</p> <p>【佐久間委員】 実際に英語で何ができるようになるかを明確に示すのは難しい。学校教育では評価を出すことができるが、高校生や社会人に対しても、英語活用の基準を示していくことが課題となる。</p> <p>【大岩根委員】 実際に英語を使う機会として、米軍の方が市内に出てこられるような取り組みも入れてはどうか。外国人の方に対しても市内に英語が通じるお店やメニューを周知していくことで、活性化や雇用にもつながるのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地である錦帯橋等に、英語で対応できるボランティアや親子で学べる機会をいかにつくっていくか。 <p>【二上委員】 商工会議所で、英語メニューがあるなど対応しているお店にはウェルカムステッカーを貼っている。そういった告知も併せていけば、英語を使える環境は増えていくと思う。</p> <p>【大岩根委員】 そうした取組が、外国人がよく見るトリップアドバイザーなどに告知できればよいと思う。</p>
--	---

	<p>【岩野座長】PRの取り組みなども含めて、もう少しメリハリのついた施策案をしていくために、皆さんのご意見をいただきたい。11月26日（火）のワークショップへの参加者についても、周辺の方などへの声掛けをお願いしたい。</p> <p>【事務局】次回の検討会は12月17日（火）10時の予定。会場は改めてお知らせする。</p> <p style="text-align: right;">（以上）</p>
--	---